

顧客に密着した技術サポートで トータルソリューションを提供する

台湾のIT産業の発展は、その裾野産業で大きな蓄積を持つ日本のデバイスメーカーをひきつけている。サンケン電気はコア製品であるパワー半導体を初めとして、液晶ディスプレイのキーデバイスであるCCFLなどで世界的にも高いシェアを持つ。

同社は2001年に進出以来、半導体やCCFLなどの営業活動を続けてきた。よりユーザーに密着した体制を築くために、昨年「台湾技術センター」を設立し、台湾での顧客サポート体制を構築するとともに、グループのアジア全体における技術サービス、トータルソリューションの提案機能を強化している。

今回は台湾三壘電気(股)の若林英敏総経理にお話を伺った。



台湾三壘電気(股)
総経理 若林英敏氏

パワー半導体で世界をリード

まず、御社の概要と沿革についてお聞かせ願えますか？

弊社は2001年6月に日本のサンケン電気の100%子会社として設立されました。サンケン電気グループの日本やアジア諸国で生産された製品を台湾で販売しております。

現在、従業員は12名で、営業部門5名、技術部門5名、管理部門2名です。うち、日本人は私を含めて2名体制です。

台湾サンケン電気の主な取り扱い製品は半導体や液晶ディスプレイのキーデバイスであるCCFL(冷陰極蛍光放電管)、CCFLインバータや電源ユニットで、アジア各国の生産子会社で製造しております。半導体は日本で、CCFLは日本・韓国、CCFLインバータは韓国、電源ユニットはインドネシアで製造しています。

私共が取り扱っている半導体は半導体の中でも特にパワー半導体と呼ばれるものです。人間で言

えば頭脳にあたるLSIなどの働きを支える心臓として、エレクトロニクス回路を動かす重要な役割を担っています。サンケン電気の半導体は家電製品、AV機器、OA機器、さらには電子化の進む自動車まで、さまざまな分野で幅広く採用され、テレビ電源用ICは高い世界シェアを獲得しています。

弊社半導体部門の台湾における主要顧客は、主に大手家電メーカー・モニターメーカー・電源メーカーで、液晶テレビ・LCD/CRTモニター・パソコン用電源・ACアダプタ等にディスクリート部品からICまで多岐にわたって採用されています。また、近年の世界的な環境への意識の高まりから、各機種に採用される部品は省エネ・環境への配慮がもとめられ、弊社の新製品開発もそれらを意識したものとなっています。

今年最初の新製品である新部分共振電源「STR-T2200シリーズ」は、従来にない高効率な電源を可能とし、大型液晶テレビ・OA関連機器・大容量ACアダプタの製品化を容易にします。また、小電力電源市場向けに製品化されます「STR-

日本企業から見た台湾

「A6200 シリーズ」は高効率・省エネ・ノイズ低減を同時に実現します。

CCFL は、UV カット効果に優れた硬質ガラスの採用、高度な細管化技術など多くの独自技術を駆使し、常に業界のデファクトスタンダードとして先端技術の開発をリードしており、おかげさまで弊社の CCFL は台湾で非常に高い評価を頂いております。

顧客である台湾の液晶ディスプレイメーカー向けに電源用 IC、CCFL、CCFL インバータ、電源ユニットとのシステム化などトータルソリューションとして提供すべく、台湾サンケンをはじめグループの総力を上げて開発・生産体制の強化に注力し、台湾市場での拡大を図ってまいります。

御社の CCFL は世界的にも非常に高いシェアを持っています。液晶産業は昨年前半までの非常に高い期待から比べると在庫調整が見られますが、御社ではどのような対応をされていますか？

液晶ディスプレイ各社は次世代の新工場を稼働させ、需給バランスを崩したことや、液晶テレビの出荷が思うように伸びなかったことにより TFT-LCD パネル業界は在庫調整局面に入り、価格の下落が進みました。弊社グループではこの価格下落が需要を刺激すると見ており、パネルの在庫調整局面においても生産能力を強化しております。

従来、CCFL は福島と韓国の 2 工場で生産しておりましたが、昨年の 10 月から石川でも生産を開始し、グループの生産能力を月産 800 万本から 1,000 万本に増強しました。今年の年末までには、更に月産 1,500 万本体制まで拡大する予定です。

これにより今後も拡大が続くと予想される液晶テレビ市場の需要にスピーディにお応えできるものと確信しています。また今後の液晶ディスプレイの大型化・高性能化への対応につきましても、長いサイズの CCFL の生産能力を引き上げ、更な

るシェア拡大を目指します。

技術センターによりサポート体制を強化
技術センターを台湾サンケン内部に設置していますが、これはどのような役割を持っているのですか？

サンケン電気グループとしては 4 番目（韓国、香港、上海に次ぐ）の技術サポートの拠点として「台湾技術センター」を 2004 年 8 月に台湾サンケン社内に設けました。弊社が重点戦略市場に位置付けている中国市場では台湾系企業の進出が著しく、R&D 拠点のある台湾でのスピーディで密着した技術対応が強く求められていたことから技術センターを設立しました。

技術センターでは、常に台湾のお客様と密接な関係を築きながら、新製品を開発する初期段階より、お客様の仕様にマッチした製品とソリューションの提案を行っております。

例えば、IC ではお客様の製品の電源仕様に合った回路やトランス案を推奨したり、回路全体の動作や実働性能をお客様に評価していただくためにデモ・ボードを作製するなど、顧客エンジニアと共同試作に取り組み、現地メーカーの「設計分室」としての役割を担うことで、台湾における競争力を高めています。

また、新市場や新用途への展開を図るために、お客様のニーズを素早くキャッチし、次の新製品につなげて行きたいと考えています。

今後は本社や韓国、香港、上海の技術センター間において、エンジニアの交流を深めながら、今まで各拠点に蓄積された様々な情報やデータを共有することで、より効率よく連携を強化してアジア地域におけるデザイン・インの機能を高めていきたいと考えています。